



希望の未来へ！あなたと市政のかけ橋に すずらんジャーナル

船橋市議会議員

はしもと 和子

2026年

第83号

市民相談はお気軽に

090-5574-9079

発行

橋本

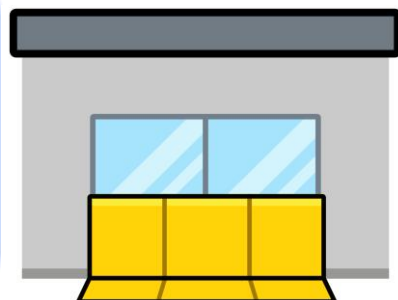
和子

止水板の設置補助と河川に水位計・カメラの設置



豪雨のたびに店舗へ雨が入り込む被害が続き、グレーチング増設や雨水管清掃を行っても改善が追いつかない状況です。

毎回、土のうや止水板を設置しても道路に面している店舗では、車が通るたびにおこる「波しぶき」が半端ではありません。



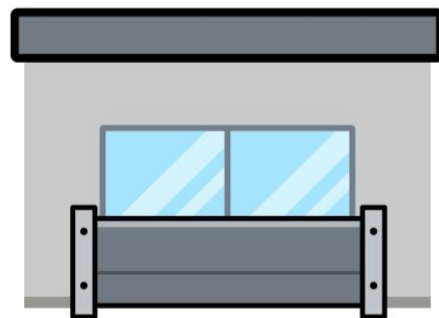
土のうや止水板では、対応できない「道路からの波しぶき」という特性もあり、従来の防災対策では限界があります。今後も台風や豪雨は待ったなしでやってきます。

早急に固定式止水版の購入・設置への補助制度を創設するべきと考えます。



豪雨時に川へ行くのは危険なため、国は危機管理型水位計の設置を進めています。

本市でも主要河川に水位計・カメラを整備していますが、市民からは「スマホで確認できるので、もっと設置を」との声が寄せられています。都市化で水位が急上昇する本市では、リアルタイム情報が重要であり、さらなる設置を進めるべきと考えます。



公共下水道整備までの間、市は持ち運び可能な止水板を備蓄し、要望時に設置して浸水被害の軽減に努めています。固定式防水板の補助制度はありませんが、近年の大雨を踏まえ、他自治体の制度を調査・研究します。

また、国の「危機管理型水位計」制度を活用し市内河川への水位計・カメラ設置を検討し、情報発信の充実を図ります。



飯山満川に設置されている水位計

誰もが安心して受けられる教育



不登校のお子さんがあるご両親から様々お話を伺う機会がありました。その時に、最初に言われたのが、「我が子は、不登校の【不】という字が、自分を否定されているようで嫌だと言っている。」という切実な声です。

実際に学校に行かれない理由があるにもかかわらず、「行かれない＝悪いこと」「怠けている」と誤解されてしまい、本当は頑張っているのに、自分が否定されたように感じてしまう。切実な声だと思いました。

群馬県では、不登校というネガティブなイメージを払拭するため、現役高校生の提案をもとに「ユニパス(UniPath)」(自分だけの道)という肯定的な名称に変えました。



フリースクールを利用する場合、学校と面談の上、出席扱いとなる民間施設を選ぶことが重要ですが、利用料金がかかります。公立の義務教育は授業料が無料です。学校に行きたくても行かれない子どもたちの選択肢として半額補助や、一律支援などを検討すべきと考えます。

名称の扱いについて、子どもの思いを真摯に受け止め、フリースクール助成の在り方も含め、情報収集に努めます。

不登校を経験した高校生から「相談窓口や支援先が沢山あるなかで、本人の気持ちをどのようにくみ取り、実際の利用につなげていくかが重要な課題であり、支援先、例えば、フリースクールなどを知っても利用できない背景に経済的なこともあること。体制やサービスを整えるだけでなく、一人ひとりの声に向き合う必要があるのではないか」との声をいただきました。



相談窓口が多くても本人にあった支援につながらなければ意味がありません。相談のコーディネート体制が必要だと考えます。



総合教育センターが児童生徒・保護者の相談に応じ、個々の状況やニーズを丁寧に聴き取ったうえで、学校と連携して支援しています。

重度障害児等特別助成

高崎市では、今年度から、重度の障害のある子ども達が、テーマパークなどへ外出する際にかかった費用、交通費等を助成する制度ができました。

助成対象は、テーマパークなどの施設等の入場料金やチケット代、自家用車の燃料費相当分、高速道路通行料金、テーマパーク等の駐車場料金、公共交通機関やタクシー・介護タクシーの実費分、医療スタッフ等が同行する際にかかった実費分などで、1年度につき上限額100,000円です。本市でも助成を行うべきと考えます。

医療的ケアが必要なお子さんの外出には、介助者や看護師等の同行が不可欠で、経済的、精神的な負担が大きいことは認識している。

令和8年度より「医療的ケア児在宅レスパイト事業」を開始。



訪問看護師等が自宅や、外出先に同行して、看護を行った場合の訪問看護に係る費用の一部を補助し、保護者の負担軽減を図りながら、ケア児の外出機会の確保を支援。
(年間48時間)

医療的ケア児等コーディネーターの方からきょうだい児のいる家庭では、荷物の多さやケアへの対応で外出が難しく、医療スタッフが同行できれば安心して家族で過ごせるとの声を伺いました。ケア児の保護者からも、看護師が一緒だと外出の負担が大きく減るとの意見がありました。

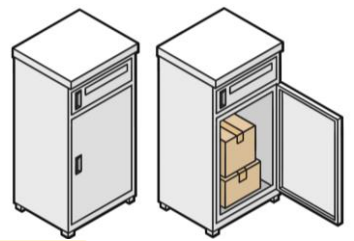
24時間テレビの特集では、きょうだい児が「お母さんを独り占めしたい時もあるけれど、家族みんながケア児を大好きだから大丈夫」と語っていました。家族の愛情があっても、外出の負担は大きく、支援があれば家族全員で過ごす時間が生まれます。



医療スタッフ同行費や介護タクシー、入場料などが助成対象となれば、家族全員での外出が可能になります。



宅配ボックス購入費補助



以前も、取り上げてきましたが、市民の方から「宅配ボックス」について、その後どうになりましたかとの問い合わせや、置き配の盗難ニュースを受け心配になられた方、再配達削減や防犯の観点からも「宅配ボックス」が必要だという方がいることから、再度とりあげます。

千葉県警では、置き配盗難の増加を受け、今年から、窃盗とは別に、置き配の被害件数を取るようになりました。県警としても増加傾向にあると認識をしています。

市民の方から「再配達は大変です」「人件費や再配達削減のことを考えると、宅配ボックスは、必須ですね」「補助金があれば設置したい」との声が届いています。

国の政策転換、県警の統計変更、市民ニーズがあることを踏まえ、環境政策、物流政策、防犯対策の観点から、宅配ボックス購入費補助制度を考えるべきだと思います。

国は、「総合物流施策大綱」で、多様な受取方法利用率を2030年までに50%に引き上げる目標を掲げ、再配達削減を国策として進めています。しかし、置き配の増加に伴う盗難リスクの高まりは全国的な課題となっており、これを軽減する有効な手段が「宅配ボックス」の普及です。



再配達削減や環境負荷軽減の観点から、必要性や効果を踏まえ検討します。

はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

市政に関するご意見・ご要望をお寄せください。



S.35年 長野県軽井沢町生まれ 小諸商業高等学校卒業

八十二銀行入行 S.57年より船橋市在住 H.27年より保護司